

一ヶ月の奇跡（目からウロコ）

～A1 CLUB QSO PARTYをきっかけに～

5月に入る約1週間ほど前のことです。

毎月月末になると、次の月の目標を自分なりに決めて、それに向けて努力（と同時に書いて忘れないように）することにしています。

その5月の目標の1つに、1日から31日まで、丸一ヶ月間に亘って行われる例年の「A1 CLUB QSO PARTY」を今年も参加して参加賞をもらうこととしました。

しかし、今年のQSO PARTYは例年と違って、新しい「お題」が提案されたのです。

そして、この「お題」こそがそこから始まる1ヶ月後に、思いもしなかった奇跡を生むことになったです！

その様子をここで、紹介したいと思います。

ただ、よ～く思い返してみると今回の奇跡は偶然ではなく、これまでの色々な「つながり」がこのイベントとジョイントしたことによって成り立ったことなんだと悟り、いかに普段の何気ない関わりが一瞬にして「姿を現す」ほどの結果を生み出すことになるのだ、ということを感じさせてくれました。

日々、何気ない行いや付き合いがその原動力となることから、やはり「普段から真摯に向き合うことが一番大切なんだ」と思わずにはられません。

私がA1クラブに入会する（入会金・会費無料）以前の2013年から毎年参加するようになった「A1 CLUB QSO PARTY」。

今年はいくまでの趣向が少し変わりました。

昨年までの規約では単に「5NN BK」以外のラバースタンプ程度の文字でも、NAMEやQTHなど違う情報入手ごとに1ポイント加算でき、トータルで25ポイント以上取得すると参加賞がもらえる、といったものでした。

しかしそれが今年「お題」が「相手局の電鍵を聞きだすこと」で1ポイント獲得し、10ポイント以上で「アワード」（PDFファイルにて発行：無償）を発行するというもの変わったのです。

規約を初めて読んだ時も、“多少難しい課題だな”とは思ったのですが、実際には思った以上に大変な苦勞を強いられることになりました。Hi

欧文でOKということで気は楽だったのですが、逆にこれがまた難しさをアップさせる原因にもなったのです。

初めての交信時に相手局の電鍵を確認した後、もし同じ相手局と次に交信した時、前回と同じ電鍵を使っていれば得点になります。



J H 3 M K P

JCC220107
PM74UX
街道 山崎01 KD1006

今年のA1 CLUB QSO PARTY 参加記念のQSLカード (予定)

そんな時は他にどんな電鍵を持っているのかとか、電鍵は何台持っているのか？など前回とは違う内容の情報を聞き出さなければなりません。

その問いを欧文でしなければならない為、普段使わない英単語やフレーズを欧文ですることになり、ここにまた壁が立ちはだかってきます。

しかしそんなことに気付いたのは、パーティが始まってからというお粗末な話です。

それとは逆に、QSO PARTYが始まる前に実は心に決めていたことがあったのです。それが「縦振電鍵」で出来る限り多く交信しよう！ということでした。

この考えに至ったのも実は伏線がありました。

昔から縦振電鍵こそCWの基礎であり、これが出来なければアマチュアと言えども「通信士」には見えないのだ！という思いをず〜と抱いていました。

毎年秋に開催される「青少年のための科学の祭典」のイベントなどでは、一般の方には「CW」という言葉は通じません。

「電信」と言うことで何とか「モールス」？ というように反応が帰ってくる時があるのですが、実際にモールスを打っているのを見たことがあるという人は圧倒的に少ないのです。

一般人にとって“電信を打つイメージ”はやはり「縦振電鍵」を打つシーンを想像されるようです。

ですから、一般の人が所謂「パドル」という横振電鍵は到底ご存知ないですし、パドルを打つ（語源通りに“叩く”）所作はエレキ回路の動作から説明しないと理解してもらえません。

私自身、やはり通信の原点であった縦振電鍵でモールス信号を打つ姿こそがアマチュア無線家だったのでした。

写真

中央がハイモンド社製縦振電鍵 HK-3
両隣が共にパドルと呼ばれる横振電鍵です。



そんな私がCWに再挑戦したのが60歳の還暦直前。

1～2年はパソコン(PC)にインターフェースをつないでキーボードを叩いて行う送信と、モールスの解読ソフトを同じくPCにインストールしてモニターに映し出される英文文字で交信する、といった完全PC頼りのCW(もどき)のA1モードでの通信といった状態でした。

その後何とか移動運用をきっかけにPCから離れて、「手打ち」と「耳から頭への信号解読変換」に慣れたとは言え、未だにラバースタンプ以外の文字が返ってくるとパニックを起してしまう低受信能力。

いつかこんな状態から脱却し、CWでのラグチューをしたいと最近は思い続けていました

が、

その一方で、もう年なので上達は無理なのだ、と自分に言い聞かせていた始末。

今思えば、「何とか人前で恥ずかしくないレベルであることを見せたい、証明したい！」という目先のことしか頭になかったようです。

究極を言えば、少しでも早いスピードで打ってかっこよく見せたい、そのことが最優先であるとすら思ったことがありました。

このままでは、やはり耳の練習には成りませんし、逆に打つ方もいつも同じラバースタンプばかりの交信では、そこに出てくるフレーズの文言だけが早く打てて、それ以外は躓いてしまう結果になるのです。いかに多くその言葉を打ったかが「勝手に手が打ってくれている」のですから。

やはりこれしかないのですが、なるべく苦勞しないで覚えたい、人に下手な所を聞かれない、このようなことがいつも頭の中を支配してしまうのです。

解決策は唯一つ。

「恥は掻き捨ての凶々しさとひたすら練習&実践で体に覚えさせる事のみ！」

と今の私はハッキリ断言できます。

恥ずかしさが厚かましさに負けだすと、交信することがそう苦痛ではなく、楽しくなって交信という階段を1段飛ばしのような感覚で上がっていっていると言えそうです。

苦にならないのですから、上達(=練習量増加)は以前より明らかにスピードアップしていく筈です。年齢的なハンディはあるでしょうから上達のテンポは“2歩進んで1歩下がる”くらいを覚悟しておけばいいんです。Hi

そんなことで何とか10局のクリアラインを突破したところでA1クラブのHPを眺めていると、毎年ストレートキーコンテストというのが開催されており、ストレートキー(縦振電鍵を以後こう呼びます)には縁がなかった私が知らなかっただけで、アクティブなメンバー局やこのコンテストに参加経験のある局ならばキーの名前聞く事には違和感はなかった筈です!

しかし私にとってはストレートキーで参加しようと思ったのが僅か1週間弱の話。そしてキーの種類がこんなに多いのだということを知らなかったお陰で、折角KEYの品番を問い掛けたにも関わらずキー名がコピー出来ずに終わってしまったことも何度かありました。キーのメーカー名や型番、或いは海外製のものなど、ほとんどといってよいくらい初めて聞く品番等でしたから、中々コピー出来なかったのです。ストレートキー経験者との大きな差はここでは絶対的な開きがあったのです。

所がここで大異変が起こったのです。

それは、よちよち歩きの赤ちゃんのようなフラフラして打っていたストレートキーでの送信が、月半ばを過ぎだしてから日に日に自分でも驚くほどスムーズになってきたのです。

そう、勝手に手が動き始めたのです!(最も現在は右手だけですが。左手での練習はほとんどしなくなってしまっています)

それまでストレートキーでの実践経験は電信級の試験の前と、電信級資格取得後のしばらくの期間、フレンド局とA1モードでのカード交換のための極々限られた交信のみで、まともな交信すら殆ど経験ないにも関わらずだったのに・・・です。

考えるに、パドルではエレキー回路で連続発生してくる信号を切る(離す)タイミングの操作ばかりが頭の中を支配していて、それ以外のことを考える余裕なんて本当になかったのです。

それに対してストレートキーはドット/ダッシュを自分のタイミングで一つずつ考えて打つごとに（手が反応している間）頭の中では次に打つ言葉を考える時間的余裕が生まれているのです。

本当に、自分の手首の上下運動より頭の思考回路の方がほんの僅かに早い時間差で働いてくれるようで、意識的に操作出来てしまうのです。

これに気付いた時が、目からウロコが落ちる瞬間でした。

意味を持つ文字として残す為に、手を離してエレキー回路が発する信号を止める行為に神経を使うパドル操作。

これから打とうとする文字を頭の中に思い浮かべて最初の信号をドットで始まるのかダッシュで始まるのか打つ最初の点が短点にするのか長点にするのか、始めの一挙手に神経を使うストレートキー操作か、キーを選ぶことでもう決まってくるのです。

繰り返しますが、ストレートキーならドットやダッシュの次のドット/ダッシュを打つ間の微妙な時間中に自分の考えていることを割り込ますことが意識的に作れる！ように思うのです。

ですから、自分の好きなラグチューの話題などを今打っている間に、すぐにBTを入れて話を変えるなどの楽しみが増えます。

このパドルかストレートかのキーの違いだけで交信の楽しみが増えたことによって、完全にストレートキーによる交信にはまってしまいました。

人生、どんなことでもそうでしょうが、ほんの一瞬のことでガラリとそれからが変わることがあるんですね。そんな経験をしたこの1ヶ月でした。



今までと変わって、手前のTS-900Xが5月の主役になりました。

尚、TS-900Xでは周波数が直読み出来ませんので、アンテナのつながっていないI

C-7300Mの音声波形をモニターすることで、周波数と信号を見る事が出来ます。

TS-900Xの欠点は、CWフィルターが入っていないので、40数年前の無線機では帯域が広くて混信に悩まされることです。Hi

by JH3MKP/岡口

参考資料 2020年5月 バンド/モード別交信記録

バンド/モード等	RIG	出力	交信数	ハドル種類	
① 7MHz/CW	IC-7300M	500mW	21	HK-3,JA2	JA2は1局のみ使用
② 7MHz/CW	IC-7300M	50W	42	HK-3,JA2	JA2は1局のみ使用
③ 7MHz/CW	TS-900X	10W	24	HK-3	
④ 7MHz/SSB	IC-7300M	50W	5		
⑤ 50MHz/CW	IC-7300M	30W	2		
⑥ 430MHz/FM		10W	1		
		合計	95局		

7MHz/CW	87	
7MHz/SSB	5	合計95局
50MHz/CW	2	
430MHz/FM	1	

2020年5月 バンド/モード別交信記録

